

さくら新聞

発行者：
下関深坂さくら友の会
下関市安岡町1-8-3
TEL: 083-258-0143
FAX: 083-258-5910
http://www.dion.ne.jp/yasuoka/sakura

残暑お見舞い申し上げます。



専務理事
西川浩子

今年も又、「今までで一番暑い夏」と思うような灼熱の日差しが続きました。木立の中では蝉の声がゆく夏を惜しみながら、一際か高く聞こえてきます。市民の財産である「深坂自然の森」を四季を通じて皆が集える理想の里山とするために、「下関深坂さくら友の会」を発足して、はや5年目になります。一人では限られた事しか出来ませんが沢山の人が集まれば大きな力になり数倍の作業とアイディアが生まれてきます。皆さんと一緒に植樹したシャクナゲ五十本と「もみじ谷」のもみじとその周辺整備など着々と目的に向かって進んでいます。しかし、自然と向き合うのは大変なことしばしばあります。維持管理が広範囲な

め、草をいくらか刈つても夏場は追いつきません。又、強風で桜の木が倒れたり、杭が腐ったり、ネームプレートが外れたりなど・・・緊急出動をお願いします。またたび頂き頭の下がる思いがします。例えば「下関深坂さくら友の会」が未だ発足してないころ、お叱りの電話を沢山いただきました。もちろんご自分の桜はご自分で管理して下さいと申込説明書には書かれていたのですが・・・でも、下関深坂さくら友の会が発足してからお陰さまで、今ではそう言う電話も少なくなりました。ネームプレートに書かれてあるコメントを見ながら胸の痛む思いがする木があり、またどうにかしてあげたい木もあります。ネームプレートが外れて名前の分からない木など、まだまだすることは山積んでいます。が、これから一歩一歩改善して行きたいと思っています。

毎年、皆さまに「下関深坂さくら友の会」へのご入会をお願いしていますが、今年も多くの皆さまからご入会戴きました。団体、個人、賛助を合わせると今現在337名になりました。中には振り込み用紙に心温かいコメントを書いて下さる方もあり、とてもうれしく思います。これから、この熱い思いと情熱をもって人生経験豊かな皆さんと共に、一段一段と高いハードルを乗り越えて進めていきたいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。

(平成廿二年八月)

西川浩子さんは、長らく響灘ライオンズクラブの事務をされていたが、今年六月で退職され、七月からはさくら友の会の専務理事一本で奉仕されている。「さくら友の会」の発足以前から、深坂の桜に関する一切を処理してきた生き字引的存在。明るくて、温かくて、控えめで、それで居て言うべきことはきちつと言える類まれなる女性。桜のオーナーからのクレームなども辛抱強く応対し、さくら友の会の危機をいつまでも未然に防いできたことなど、いつか功労者を表彰するのなら、その第一号にこの人を推す人も多いのでは。

(編集部)

事務局、新事務所に移転



七月二日(金)、この日新しい事務所に電話が引き込まれ、パソコンもセッティングされたので稼働を始めた。西川専務理事の響灘ライオンズクラブ退職が数年前から宣言されており、それに伴い新事務所が必要とれていたが、適当な物件もなく、家賃問題なども心配されていた。このほど、福富理事長が、ご両親の住まいだった民家の無償貸与を申し出られ、申し分ない物件であり、好意に甘えることになった。写真は同民家の前で、右から福富理事長、西川専務理事、城戸交流部会長。左側は玄関、右のシャッターは車庫。さくら友の会の看板もかかりました。七月十一日臨時総会で正式承認されました。場所は安岡町の山口銀行の裏、ス

パーのマルシヨクからも川一つ隔てただけで大変便利なところです。新住所〒759-6603 下関市安岡町一丁目八三

TEL: 083-258-0143
FAX: 083-258-5910

新事務所でお祝い



理事たちも、どこに事務所が移転したのか知りません。確認のため、各自地図を頼りに集まると、新事務所内部を見学した後、開放していただいた奥座敷でのささやかなパーティーとなりました。急なことで、お払い代わりに、理事長の指名によって、野口広報部長がキリスト教式に、感謝の祈りを奉げました。本当に素晴らしい事務所が与えられ一安心です。

桜四方山

このコラム名は、何と読むのか?という質問を時々受ける。「さくらよもやま」と聞くと、大抵の人は、あそこかと思ひ当たるようだ。記憶のどこかにはあるのだから、四方山という漢字は最近見かけることがないので忘れていたのだらう。さて、桜についての四方山話、今年の桜研修旅行は、韓国(釜山、鎮海、慶州)だったが、早くも来年の申し込みが始まっている。と言つても、目的地も期日も決まっていなくて、受付もしていないが、全てお任せでいいから来年もぜひ連れて行って欲しいと熱望される方が一方ならずあるらしい。会員交流部会では下調べが始まっている。旅行業者が青森の弘前公園のプラン説明に事務局に来ていた。本州の西の果てから北の果てまで、何日かかるのだらう?時間?費用?そんなものはかまわない。まるで、もう恋人に恋焦がれるような心境なのかも知れない。桜が呼んでいるのか、日本人の本能なのか。それとも「さくら友の会」の仲間がよいのか、来年末でたつぷり楽しい夢が見られそう。